

株式会社北海道エアシステムの事業適応計画のポイント

令和4年2月22日

- 株式会社北海道エアシステム（以下、HAC）は、札幌丘珠空港を拠点に、札幌と道内外地方エリアを小型機・多頻度運航で結ぶことで、北海道の経済や道民の皆様の生活を支える交通インフラとしての役割を担っているため、新型コロナウイルス感染拡大により大幅な旅客需要の減少に見舞われたものの、就航する地域の皆様を生活を支えるため運航を維持し続けてきた。
- ポストコロナにおいては、北海道内の基礎需要である生活・医療・ビジネス需要の拡大を図るとともに、地域とも連携した観光需要の取込み施策やコロナ禍における観光トレンドの変化への対応施策等を展開し、需要の拡大を目指していく。
- 需要拡大への対応としては、新機材の大型化効果を最大限活用するとともに、運航効率を高め、現行の28便/日を最大30便/日とする増便を行うことで、航空ネットワークの拡充を図っていく。これらにより、収益力を向上させ、HACおよび地域の持続的な発展を実現する。

<事業適応計画の概要>

1. 事業適応計画の実施期間

令和4年3月1日～令和8年3月31日

2. 生産性向上目標、新需要開拓目標

計画終了年度のEBITDAマージンが、基準年度のEBITDAマージンを5%ポイント以上上回ることを目標とする。

3. 前向きな取組の内容

計画終了年度の売上原価をその売上高で除した値を、基準年度の当該値より5%以上低減することを目標とする。

4. 支援措置

税制措置（繰越欠損金控除上限の特例）

<事業適応計画のイメージ>

需要拡大の取組みと対応

- ・ 道内基礎需要（生活・医療・各種ビジネス）の拡大
- ・ 地域等との連携による観光需要の取込み
- ・ ポストコロナ下における観光トレンドの変化への対応



ATR機の導入

<大型化効果の活用>
1機当たり
33%の供給量増加

<運航効率の向上>
28便/日→30便/日
丘珠＝利尻/函館線の
増便

収益性の向上・地域と共に持続的な発展

路線ネットワーク

